

（午後1時00分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番9、12番 堀内君。

〔12番（堀内和久君）登壇〕

○12番（堀内和久君）皆さん、こんにちは。何回やっても緊張します。橋本市発展のために頑張ります。12月議会ということで、今年はどんな年よという話がよく出るんですけど、市制10周年で、私事ですけど夏に40歳になりまして、20周年までもうちょっと僕も行けるのかなと、おれるだけおりたいと思います。平木市長についていきたいと思います。

今年の流行語大賞は、「神ってる」ですかね。今年1年の出来事、ご活躍からのたくさんのワードの中から選ばれた広島カープの四半世紀ぶりのリーグ優勝、記憶に新しく、ここぞというところでのプレーなど、結果大活躍、神がかり的なことであります。当然、選手、ファン、全てがMVPに感じるような雰囲気だったんですけども、2試合連続のさよならホームラン、鈴木選手、監督が「神ってる」という言葉を言ったことから出てきたというふうに記憶しております。

皆さまは何か今年、神ってる出来事というのはありましたでしょうか。私の平成28年のイメージは、さきやかではありますが、黒河道ですかね。あと、はたごんぼ、放送云々でのPR度が向上しているということ、うれしい限りでございます。一番うれしかったのは、この間からの「広報はしもと」に一部紹介していただいていたんですけど、地元の小学生に案内看板がまだ充実してないということか

ら、黒河道へようこそという、こういうちょっとしたのをつくっていただいて、私、橋本領全域に張らせていただいて、九度山、高野とも連携してお願いに行かせていただいたのが現実にかない、市の広報もそれを載せてくれたっていうのが、ちょっとセンスの良さを感じるなど、そういうふうに思いました。

平成28年、黒河道云々でちょっとにぎやかになって、平成29年という、またうれしいこといっぱいがあればいいなど、例えばですけども、ひとり言で、野球場とか、柔道場とか、それと同時に、私個人は厄年に入るんでなかなかうまいこといけへんのかなと、そういうふうに思います。どちらかという、困ったときの神頼みっていうふうな感じが多いんですけど、都合がよすぎますよね。日頃の行いをもっと正したいと思います。

本市の流行語があるとすれば、多分、正反対なんですけども、財政難あと数年というふうな、しかしながら苦しい中で、市政運営、市長の采配は本当に僕個人はよくやっていると、いうふうに思います。ないなりの、神ってるように感じる部分もあります。いつも本当にご苦労さまですという言葉をここで申し上げたい。継続した市政運営のために、たまには、市長、ゆっくり休んで充電して、本市のトップの健康ありきでのチーム橋本、元職員ナンバーワンプレイヤーの副市長がいるんですから、困ったときは副市長ということで。

それでは、ラグビーボールのような質問にならないように、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

大きく二つございます。ちょっと関連しているんですけども、一つ目、本市のカフェ

ミーティングについてでございます。

本市では、行政各部や公民館活動、いろんなところでカフェスタイルの懇談をしているすばらしい企画であると思います。新しいスタイルで、自分自身の活動、また同僚議員と会派の市政報告会などでも市民の皆さまと貴重な時間を過ごせたように思います。

行政各部におかれましては、報告時に市長が出向き、参加者の声に耳を傾け、市民との距離を縮められているように感じます。そのときにいただいたご意見はどのように精査して、可能な範囲内でどのように反映していくかをお伺いいたします。

二つ目でございます。旧学文路中学校の跡地利用についてでございます。

橋本中央中学校が開校して、少しずつ環境の変化になじんできたと感じています。小中一貫教育の効果というのは私にはわかりません。まだ、ちょっとわからないところもあります。よくやってくれているとは思いますが、中学校統合によってクラブ活動の充実が特に光って、僕は感じました。今後の課題の一つとして、残った二つの学校でのもともとの統合委員会、そして、跡地利用委員会的な名前が変わっていると思うんですけども、ご要望など、ご意見を考慮し、今後、良き方向に向かっていただきたいと皆が思うところであります。

そこで、私の過去の一般質問等、今回の大項目の一つ目、地元のカフェミーティングでの報告会を思いを込めて、旧学文路中学校の跡地利用の方法と現在の状況をお聞かせいただきたいと思っております。

神ってる答弁、よろしくお伺いいたします。
○議長（中本正人君）12番 堀内君の質問項目1、本市のカフェミーティングに対する答弁を求めます。

政策企画室長。

〔政策企画室長（上田力也君）登壇〕

○政策企画室長（上田力也君）本市のカフェミーティングについてお答えします。

本市のカフェミーティングは、市長の政治信条である市民協働を推進していくための一つの手法として、平成27年度から取り組んできました。はしもとカフェミーティングは、できるだけ多くの市民の皆さまの声を政策提言として市政に反映させることを目的としており、あわせて市民の皆さまと職員の情報交換、情報共有の場であると考えています。

開催方法については、各部がそれぞれに抱える課題の解決に向けたテーマを設定し、原則月1回のペースで、ワークショップ形式などを取り入れ、お茶を飲みながら少しリラックスした雰囲気で行いました。また、開催回数としては、昨年6月企画部を皮切りに、今年8月の橋本市民病院で全10回を実施し、一巡目のはしもとカフェミーティングは終了しました。

ミーティングの概要ですが、第1回目の企画部のテーマは「地方創生～変革の年 はじめの第一歩～」として開催し、橋本市の魅力の発信手段や、橋本市の強み、弱み、魅力あるまちづくりについて話し合いをしました。市民からの提案では、はしぼうを使った紙面づくり、ホームページを活用してもっとわかりやすく市民に伝えることや、雇用の創出等の意見が出されました。

2回目の経済部のテーマは「『農』で地域を盛り上げよう」として開催し、和歌山大学経済学部教授を招き、本市の農について講演をいただいた後、話し合いを行いました。まず、農に関しての橋本市の現状や問題について話し合い、次に、農による地域活性化の方策について話し合いました。その中で、定年を迎えた人を農業に活用することや、未利用農地の情報を集約して発信することが大切である

などの意見が出されました。

3回目の総務部のテーマは「女性や子どものための防犯・防災」として開催しました。犯罪に関すること、子どもや自分の身を守るために日頃から気をつけておくこと、大災害に対して女性や母親として準備しておくべきことなどを話し合いました。市民からは、地域の人と人のつながりをつくる、家具を固定するなどの意見が出されました。

第4回目の教育委員会のテーマは「本音で語ろう私たちの望む学校」として開催しました。保護者・地域の方々、教師などが集い、学びの場である学校の現状と、どんな学校が望ましいかについて話し合いました。出た意見としては、郷土愛を育む教育の推進や学校と家庭の連携、学校間の連携の強化、子どもを温かく見守る地域社会づくり等がありました。

5回目の建設部のテーマは「杉村公園の将来像」として開催しました。杉村公園はどのような公園であってほしいかということ話し合い、安全に配慮した明るい公園や、遊具の増設や駐車場の整備等の意見が出されました。

第6目の消防本部のテーマは「家庭での防火やけが・急病などの対応について」として開催しました。日頃心がけていることや、もしものときの対応方法等を話し合い、消火器や警報器を設置すること、防火訓練に参加する、かかりつけの病院をつくるなどの意見が出されました。

第7回目の上下水道部のテーマは「上下水道について」として開催しました。安全安心で持続した水道水を保持するための方法や、水道料金、下水道等について話し合い、水道水をペットボトルに詰めて販売することや、水道料金の仕組みや経営状況を周知してほしい等の意見が出されました。

第8回目の市民生活部のテーマは「食品ロスを減らそう」として開催しました。最初に文部科学省消費者教育アドバイザーの方を招き、身近な問題を消費者として考えるための講演を行いました。その後、消費者としてできること、すべきことや学ぶことを話し合いました。食べる分だけを買ひ、買い過ぎを防ぐことや、広告に惑わされない、消費者教育の推進等の意見が出されました。

9回目の健康福祉部のテーマは、「高齢者が住みやすいまちってどんなまち？」として開催しました。住みやすいまちとはどんなまちであるか、また住みやすいまちにしていくために自分ができることはどんなことかということ話し合いました。出た意見としては、住みやすいまちとは、地域で声をかけるまち、お互いが見守り合いのできるまち、歩いて行ける距離に集える場所があるまちなどがありました。また、自分ができることとしては、地域での声かけ、子どもと高齢者の交流、少人数でもいいので仲間づくりをするなどの意見が出されました。

第10回目の橋本市民病院のテーマは、「かかりつけ医から紹介状をもらって、市民病院で診てもらいましょう」として開催しました。効率の良い医療や、紹介状をもらって受診することの必要性などについて話し合いました。外来患者が増えると待ち時間が長くなることや、丁寧に診療してもらい説明してほしいとの意見が出されて、紹介状を持っていくことのメリットを話し合いました。

以上が10回にわたるカフェミーティングの概要です。なお、この開催状況についてはホームページで公表しており、また、提案いただいた事項に対する事業等への反映状況について、「広報はしもと」にも掲載を行っています。今後とも、ご参加いただいた皆さまをはじめ、広く情報発信を行っていきたいと考え

ています。

議員おただしの、そのときにいただいた意見はどのように精査して可能な範囲でどのように反映していくかというご質問についてですが、まず、提案によっては、既に実施済みのも、あるいは、現在、実施中のももありますが、それ以外のものについては担当部署において重要度・必要度、緊急性、安全性、将来性及び費用対効果などを精査した上で事業に反映できるか否かを判断いたします。事業に反映できると考えられるものについては、実施時期の検討を行います。緊急性のあるものや明らかに効果が見込まれるものについては、現行予算の中で優先順位を上げるか、あるいは、補正予算や次年度予算に計上するか検討し、事業化することとしています。また、将来的に検討していく必要があるものについては、政策的な優先順位を勘案しつつ、財政状況を考慮した上で、計画的に進めていくことといたします。

なお、二巡目のはしもとカフェミーティングについては、平成29年度当初に第1回目から実施していく予定です。ミーティングの内容や進め方については、一巡目の課題を踏まえた上で現在検討中ですが、幅広い年代の方に市の行政について理解していただくとともに自由に議論していただき、住んでよかった、住みたくなるを実感できる、元気なまち橋本市の実現に向け、市民と行政が情報を共有しつつ市民の力が生きるまちづくりを協働で進めていきたいと考えています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。1周して10部署というか、いろいろやっていただいたんだというのを感謝と同時に、まだやり足りないとか、いろんな検討課

題とかも残つと思うんで、それはそれでまた市長のお考えのテーマのもとに、市民からの意見をくみ上げて、より良きものになってほしいと願うところであります。ちょっと簡単な素朴な疑問を先にさせてもらうんですけど、各部署のカフェの周知方法と、人集めに対しての方法というのはどういうふうにされたんですか。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）まず、広報につきましては、「広報はしもと」、それから、ホームページで広告といいますか、案内を市民の方にさせていただきました。それとともに、これは各部にもよるわけですけども、ポスターをつくって広告をしたり、それから、チラシをつくって児童館、こども館、公民館、そういった公共施設へ配付して、なるべく市民の目にとまりやすいような、そういう広報というか、人集めを行いました。

それから、テーマに関連するような団体であるとか、そういったところにも声をかけるとともに内容に興味のあるような知人に対して直接的に声をかけたという、そういうところでございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ちょっともう一点、参加人数と参加者の平均年代、部署によって違うのかなというのも、ちょっとこれは難しい質問やと思うんですけど、そこら辺、もしわかれば教えてください。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）参加人数につきましては、10回開いたわけなんですけども、最もたくさんの方で行いましたのが、これは教育委員会の「本音で語ろう私たちの望む学校」として、このときには58名の方ご参加をいただきました。あと、それから、第3回に開きました「女性や子どものための防犯・防

災」、ここでは36名というふうになっております。あと、「上下水道について」というテーマでは、13名の方に集まっていただきました。それから、市民病院のかかりつけ医から紹介状をもらってというテーマにおいては、12名の方にご参加をいただきました。ということで、全ての延べですけれども、参加人数が271という報告が上がっておりまして、10回ということといたしますと、平均にすると約27人ということで、重複して参加される方がおられますが、一応、延べの人数ということでございます。

それと、平均の年齢ですが、最も若い、だいたい30代を中心に、これは第5回に開かれました「杉村公園の将来像」ということで、これは子育て世代の方に集まっていただきました。それから、市民病院のかかりつけ医の紹介状というのが平均70代ということで、平均しますとだいたい50代の方、これが平均の年齢というふうになっております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。テーマによって興味も違いますし、いろいろ、十人十色の心を皆さん、お持ちですので、一つ要望させていただきます。今後、個人情報になるので名前は別として、アンケート用紙とかを多分とると思うんですけど、市内の30代女性とか、そういうふうにデータをとっといたら、もっと簡単に次の1周目に対してもっとできるのかなということで、個人情報で可能な範囲内であればアンケート的なところで、そういうのをとるとするか、そういうのをお願いしておきます。

一連でご答弁、1回目の壇上で政策企画室長からいただいたんですけど、1回目は、今もう機構改革でないんですけど企画部が、僕はたまたま議会事務局に用事があっていたので、企画部がしたときはたまたまいてたん

です。ちょっと覗いたんですけど、イメージです、気悪せんといほしいんですけど、ちょっとサクラというか、人を集めるのに難儀したんやなという、第1回やから多分、周知が足らんだんかなって、職員の努力が足らんだとは言いませんけども、第1回目ということでやっぱり切り口になっておるんで、あたふたしたんかなというイメージがありました。

地方創生と言うて、そのときのワードでもあったわけだし、今後どうしていくかということでテーマもちょっと広過ぎたかなって、集約つけへんだんかなというふうにならなだけ見ていて思いました。で、残りの9回はちょっと実際参加できなかったというより、半分以上がいつやるか知らなかったというのが正しい答えやと思うんです。

経済部におかれましては2番目、農業で地域を盛り上げるということで、僕個人的なところでは行きたかったな、ストライクゾーンなんでね。よくやってくれていると思いますし、行った人に聞いたら評判は良かったです。全員に聞いたわけではないです。

総務部とかは、割と危機管理官もその当時はいたのかいてなかったのかわからないですけども、周知徹底していかなあかん部分やなというふうに思います。

教育委員会は本音で語る、語ってほしいなという、思ったんです。いろいろ言うとならあれなんですけど、特に思ったのが二つ。次の建設部の「杉村公園の将来像」というの、的を得た意見がわかりやすい、方向性を絞ったミーティングなんで、こういうのはいいのかなと、さすがやっぱり建設部長のセンスあるなと思いました、僕。

その次は、ごめんなさいね、ほかを否定しとるわけではないんで、それなりにやっていただいとると思うんで。個人的に思ったのが、やっぱり上下水道部ですね。ふだん地味なイ

メージがあるんですけど、水の仕組みとか、ペットボトルに詰めて販売とか、そういうふうなことが出たということがすばらしいなって。

それと、重ねて言うんですけど、そういえば、黒河道世界遺産追加登録、入り口が賢堂清水になるんですね。賢堂と言うたら、市の水道と、もう一つ水道の水源があるんですね。これ、賢堂の水道、うまいし、成分もいいですし、高野山麓黒河水というのがぱっと思い浮かんだり、そんなことも僕も考えたりして、いろんなプラスの連想ができた。清水っていうのは名前の由来が、漢字のごとく清い水で、井戸が三つあったというふうに言われておりますし、水というのはやっぱり命の資源でありますから、こういうのを外に売っていかうかなというような意見が出るミーティングというのはすばらしいなと僕は感動いたしました。

これらを重要度、答弁にもあったように、必要度、緊急性、将来性、費用対効果に照らし合わせて、政策企画室長のぴんと来たセンスでいいんですけど、これは反映できるなと思った何か事業というのは、ありましたでしょうか。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）個人的にぴんとしたということではなく、実際、事業に反映をしていける内容について、少しご紹介をさせていただきます。このカフェミーティングを実施した地点で、実は、地方創生総合戦略なんかに盛り込まれている内容というものもあったわけなんですけれども、それも含めて出た意見と、反映いけそうな部分について、実際、反映しているものもあるんですけども、少しご紹介をいたします。

まず、ふるさと学といいますか、シビックプライドという面におきましては、我がまち

の良いところを見つけるための歴史ウォークという、これは昨年、そして今年度も行ったわけなんですけども、これは地方創生の総合戦略の事業として実施をいたしております。

それから、学生が参加した広報づくりということで、これは市民協働の一環として、今も動画に高校生が登場して、あるいは紙芝居なんかもつくっていただいて、そういったことがなされています。

それと、先ほど議員からも出ましたけども、農業と観光のマッチングといいますか、グリーンツーリズムに対して、いろいろご意見が出ました。いただきました。

それと、安全安心という部分においては、災害対策として家具を固定する補助制度や、あと、シェイクアウト訓練の導入ということで、これも28年度から実施をしております。

あと、提案といいますか、要望みたいところなんですけども、図書司書の増員であるとか、あるいは、学校関係、いわゆるトイレなどの施設の改修であるとか、あと、防犯カメラの設置をして安全なまちをめざしていこうではないかという、そういった部分。そして、あと、伝統工芸品などの製作過程を、YouTubeで配信するとか、そういったこと。あと、空き家の利活用とか、そういった意見が出ました。いずれも今後、実施しているものがありますけども、反映できるものもあるというふうに考えております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）細かく説明いただきありがとうございます。一応、僕、今の再質としては、反映できそうな事業というふうに表現させていただいたんで、いつとは言いませんけども、近々反映していただけるのかなというふうに思っております。ありがとうございます。

市民目線ならではの今回の神ってるご意見

というのはありましたかって聞きたかったんですけど、今言うてくれた中には入っとんかなというふうに思います。

したがいまして、僕が地元でカフェミーティングしたときの話なんです。この市役所主体でやったやつとは違うんですけども、やったときに、一番市民目線ならではのというのを思ったのが、1個だけ紹介させていただいたら、市役所に来庁されて障がい者用の駐車場に車をとめて、雨が降っていたらどうするんよって素朴に言うた方がおるんですね。これがすごく心に刺さっていて、そんなも込みで、やっぱり市民から市役所というのはどういうとこなんかとかというのが見える、ありがたい、当たり前のことを気づかせていただいた、利便性を考えたときに、エレベーターあるとこ、市役所に入り口3箇所ぐらいあるんですよ。エレベーターのところが一番いいのか、それとも、正面玄関なんか、裏なんかになって、今、上下水道部のとこにブルーの駐車場ちゃんとかさえてくれてあるんですけど、雨の日どうするのかなとか、せっかくバリアフリーになっているところに雨よけどういくのかなというの、重複してお伺いするんですけども、政策的な優先順位の上で、補正予算、次年度の予算に新規計上どうのこのというのが1回目の答弁であったと思うんですけど、そこら辺、僕が今言うたのは別として、これはもう来年すぐに計上していきたいという、もう当初予算締め切り云々の時期やと思うんで、何かありましたでしょうか。ちょっと何個か教えてくれたら、よろしくお願いします。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）既にもう予算化しているわけですが、少し紹介させていただきますと、まず、都会、都市から来てもらえる農園の整備ということで、林間田園都市

近くに農地を確保して、市民農園として活用をしてもらう。それから、橋本市にとって有効な農産物を見つけてつくるということで、これは白ゴマの試験栽培ということで、今、販路開拓中ということですけども、それから、橋本産品の魅力的な情報発信ということで、オムレツのコンテスト、こういったところが提案にございました。これは全て地方創生の加速化交付金で対応をしております。それから、これも今年度の9月補正で予算化したわけなんですけども、熊本地震を受けまして、災害用の備蓄品を見直すと、こういった中で、女性の安全安心という会議の中で出されました、女性に必要な日用品であるとか、紙おむつであるとか、そういったところをこのカフェミーティングを参考に購入させていただくということとしたということが、現実的に予算化されたものであります。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。的が広いんで、この辺にさせていただきたいと思います。今後、今、補正予算云々で実現性のものを言っていただいたいんですけど、当初予算に、市民ならではの、せっかくしたんだから、こういうふうにしたんだというのをまた感じるものがあつたらありがたいと思います。僕、壇上でも言うたんですけど、最近、市長、頑張り過ぎで、オーバーワークぎみに僕は感じるんで、次回開催は副市長、理事、仲良しのお二人組でちょっとカフェに参加してみるとか、いろんなどこでくみ上げるというのはいいことやと思いますので、今後要望合戦みたいにならんように、また、真摯に受けとめられるように集約していただくことを議論をお願いして、一つ目の質問を終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、旧学文路中学校跡地利用に対する答弁を求めま

す。

教育部長。

〔教育部長（森中寛仁君）登壇〕

○教育部長（森中寛仁君）次に、旧学文路中学校跡地利用についてのご質問にお答えいたします。

全国的に少子高齢化が進み、学校の統合や廃校が進む中、本市においても今年4月、橋本中央中学校の開校に伴い、旧学文路中学校と旧西部中学校の校舎が未使用の状態になっています。

本年9月議会の一般質問にもありまして、旧西部中学校跡地利用につきましては、文部科学省が実施しています、未来につながるみんなの廃校プロジェクトなどを利用し、広く民間のアイデアと資金を活用することも視野に入れながら、跡地利用方法を検討していきたいと考えています。

一方、旧学文路中学校跡地につきましては、統合準備会においても、学文路地区公民館の老朽化による建て替えや学文路こども園の建設など、公共施設の建設により河南地域の活性化を図ってほしいとの強い要望があり、市としてこれらの要望に応えられるよう検討を進めているところです。

しかしながら、議員もご承知のとおり、本市におきましては今年度より5カ年間の財政健全化計画を進めているところでもあり、限られた財源でいかに効率よく地域の活性化を図っていくかが、本市の今後の重要な課題であります。

今後市としては統合準備会にかわり、跡地利用検討委員会という形で協議を進めていくこととなっていますが、先の学文路地区公民館におけるカフェミーティングにおいて出されたご意見も参考にしながら、できるだけ多くの住民の期待に応えられるよう、時期や内容について精査しながら検討を進めてまいり

たいと考えています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。今回、一般質問、静かですね。何か僕の質問の仕方が悪いのかな。もっと熱い答弁を求めような、きれいな質問の仕方せなあかんですけど、まずは教育委員会におかれましては、いつもご尽力いただき本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

9月議会で同僚議員が、西部中学校跡地のサテライトキャンパスの提案というか、文科省のプロジェクトという答弁やったと思うんですけども、同じような答弁やと思うんですけども、要は、学文路中学校云々というのはちょっと形が決まって前へちょんちょんと進んでいって、ちょっと待ってようとか、いろんな条件があつてとまっているとか、そういうふうな感じで客観的に見るんですけども、これはさっきの大項目1の話もそうなんですけど、カフェの意見も取り入れつつ、こういう文科省のという、西部中学校と同等の平等性というふうなことを視野に入れていただいているんでしょうか。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）西部中学校につきましては、学文路中学校のように、先ほどの答弁で申し上げましたように、公共施設に今後使うというふうな予定がないので、文部科学省の廃校プロジェクトにご提案をさせていただいております。

学文路中学校につきましては、先日、11月12日に学文路公民館で開催いたしましたカフェマルシェというカフェミーティングで、若い方から高齢の方々まで58名の参加をいただきまして、8班にわたっているような意見をいただいております。その中で意見といたし

ましては、こども園とか、子どもの遊び場、老人サロン、文化の拠点、偉人たちの伝承館というふうな、そういうふうなご意見もいただいておりますので、先ほど壇上の答弁でも申し上げましたとおり、今後は公共施設というふうな具体的な目的があるということから、現在、西部地区と同様な廃校プロジェクトには掲載するご予定はございません。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）質問の趣旨からいうと、同じ土俵に置いてほしいんです、僕としたら。皆さんの意見がそうであるように、もうちょっと柔らかい柔軟な、ピンチがチャンスで、時間はたっぷりあるんですから、ゆっくり考えてほしい。受けてもらえれへん要望としてここで申し上げておきます。

そもそも今回の通告は、学文路中学校の通告ですから、学文路中学校のことをお伺いするんですけども、基本的にありがたい答弁をいただいているんであれなんですけど、前回の質問で、僕、こども園の一般質問しました。副市長よりこども園の早期建設という話、議論を副市長とせていただいて、市長の最重要課題である位置付けというふうに感じているというふうに言うていただいたんですけど、この件に関して、統合委員会、現跡地利用委員会、もしくは地元とこういう話、議会でこういうことがあったんだよということを、その委員会と話、議論というのはあったのかどうか、お願いします。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）統合準備会がもう最終回は開催いたしました。今後、中学校の2校の跡地利用につきましては、来年2月ぐらいの検討委員会を、開催を予定しております。つきまして、委員の委嘱もまだ行っていないような状況ですので、今後、跡地利用検討委員会、そのようなところで地元の意

見等をお聞きしたいと考えてございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。そこら辺きっちり包み隠さず、教育委員会ですから本音で語っていただきたいと思います。どういう建屋が今後地域活性化になるかというのを、もう一回、もみ直していただきたいと、で、進めていっていただきたいと。

ちょっともう先、答弁をいただいたんですけど、地元公民館のカフェの意見の参考って1回目の答弁で言うていただいて、先ほどの再質問でちょっと答えをいただいたんですけど、把握しているんかということを知ったんですけど、ある程度は把握していただいていると感じます。それらを、やっぱり身につけていかんとあかんということで、住民の期待の場所というのは、可能な範囲、柔軟な対応を含めて協議次第ではやっぱり西部中と同じようなプロジェクト、文部科学省の補助金が欲しいとか、そういうことを言うてるのではないんですけど、まちづくりの一環としてその選択肢もやっぱり持っておいてほしいということを僕は申し上げておるんであって、そこら辺は答弁しにくいと思うんで結構なんです。

ちょっと初心に戻って、話はそれなんですけども、建設部長。この公民館というのは、さっきの答弁を聞いていたら老朽化というのが出てきているんですけども、学文路地区公民館というのは、耐震というのはいけるんでしょうか。お願いします。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）学文路地区の公民館につきましては、一応、新の耐震基準に基づきまして建設されておりますので、耐震性という意味ではあるということになるかと思えます。ちょっと老朽化とは若干違うことになりますけども。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。山田も新しくなったし、つくってほしいという要望をくみ上げてつくるといのは大事なことやと思います。でも、財政難なんで、もっと古くて建て替えを重きに置かあかん地区の公民館が先にあるじゃないかということをお願いしたいんであって、財政難であるから、できることからいけばいい。だから、こういう約束やったからこう進まなあかんというのは、市長もかわっていますし、やっぱり平木市長は柔軟な対応で、財政難というのを常に持ちながらできることをやっていただいているということで、もう一回、もむべきではないかなという一般質問やということをご理解していただきたいです。

カフェのご意見を紹介したら、まずうちのさっきのマルシェの話なんですね。カフェマルシェというテーマで学文路公民館でやったんですけど、まずそのコーディネーターですか、清水の前の区長がやってくれた。これ、学校の先生出身でものすごくやさしく包んだ、思いやりのあるおじさんで、うまいことみんなをくみ上げたようなプロデュースというか、指揮というか、うまいことやってくれたんですけど、まず楽しいことを増やす取り組み。心からのあいさつ、親からあいさつを見せることが大事ってソフト面でいろいろあるんです。まず出てきたのが、若い夫婦が住み良いまちである。こども園の必要性、故郷の感覚というか、味を観光などに使ったらどうかとか、お年寄り子どもたちと交流するのがうれしいはずやとか、心豊かな年配と子どもまでの交流、一部ですけど、これ、多分、学校の先生かそっち系の人やと思うんですけど、こども園は公設公営とかと言うと人もいました。これはちょっと置いて、すいません。音楽、イベント、文化の拠点というの

も言うていただいていた。キノコ公園みたいななんが欲しいというのが、そうやそうやとのすごくありました。

ということは、あそこを拠点に、子育て、お年寄りの交流の場を望んだらというのが僕は連想できるんです。当然、お金の絡むことなんで、ということは、そういう文部科学省のプロジェクトであつたりとか、そういうのも乗らないのかなということ提案しとるんであって、そこで、副市長に、前回の最重要課題からの3カ月ぶりの副市長に、子育て世代や10代の若いこれからの人にテーマに沿う地方の活性化、公民館が新しいから河南地区が発展するとは僕は思えない。要は、人であるというふうに皆が思うと思います。そこら辺で重視すべきとこというのはどこなんかって、質問の仕方が下手なんですけど、思いはわかっていたらと思うんですけど、副市長にちょっと見解をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中本正人君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）カフェミーティングで、カフェマルシェのほうですか、いろいろご意見をご紹介いただいております。それで、今、聞かせていただいておりますと、やっぱり各世代によっていろんな要望って違うんだなというふうには思います。その中でそこをどうやっていくかということになってくるわけなんですけども、以前からやっぱり最重要課題として認識していますというふうにも申し上げたんですけども、平木市長というのは、先日から議論もあるわけなんですけども、教育と福祉のところって本当に重要に思っている市長です。この間からもちょっと話をしていたら、以前から教育と福祉の連携、市議員のときからの取り組みテーマだったんだと。で、いろいろ言うたけど何も聞いてくれへんだなというふうに言われたんで

すけども、その時分からすごくその辺に情熱を燃やして市長になられたんだなというようなことを思いました。

そういう意味でも、やっぱり堀内議員もそういう趣旨でご質問をいただいたんかと思えますけども、こども園の実現というのは一番最初のテーマになってくるのかなというふうには思っております。ただ、これも市長が常々言われておりますのは、ただし、あそこでこども園をつくったら、先々どうなるのかなという、持続可能というテーマがこの間からも一つのテーマになっておりますけども、持続可能なこども園じゃないといかんのでということで大分言われていて、いろいろ統計を見ていると、ちょっと30年先というのはかなり不確実性が高いんでわかりにくいところはあるんですけども、10年ぐらいは子どもも、それから、こども園というのは市内全域から来ていただくということもありますので、そんなに橋本市の地域からということもなくコンパクトなところで、中心地域になるんで来ていただけるのかなというふうには思っていますので、そこらあたりで、とりあえず、その点が一番になるのかなというふうには思っておりますけども、今、ちょっと話を聞かせていただいておりますと、校舎も立派なことは立派なんで、耐震もきっちりしていますし、そこらあたり公民館の問題もありますけども、先ほど言われた老人の集まる場とかという話もありますんで、そこらもちょっと考えながら、こども園をつくるにしても、後の部分の活用も考えながら考えていかなければならないかなというふうには思っています。

それから、こども園については今、財政難ということでご指摘もいただいたんですけど、そのとおりでございますんで、今までのやり方のこども園というのはなかなかひよっとしたら難しいんかなとは思いますが、持続

可能で市政にもバランスのとれた財政運営をすることができるようなやり方で、こども園を実現できたらいいなというふうには思っておりますので、今もいろんなことをそのままほってあるわけではございませんので、いろいろと内部で検討は行っております。ただ、今のところはっきりしたことをこの場で、ちょっと決定事項ではございませんので申し上げられませんが、引き続いていろいろと検討はしておりますので、その点をご理解いただきたいと思います。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。最近、副市長、うまいこと答弁してくれて、迷えへんで見えるようになってきたんです、僕。大丈夫です。信じておりますので、期間を詰めたら、またでけへんという話になるんで、ソフトに包んで、できる限りの範囲内でやっていただきたい。

ちょっと市長に最後8分ぐらい残しておきますので、このくみ上げた意見を、今言っていたいたのを踏まえて、理解してくれとる部分を踏まえて、いつも言うのは額縁を外して、まず対話やと思うんです。今までのルールも全部踏まえて、流れを考えた上の対話、これが一番大事です。行政から歩み寄った対話です。向こうから言うてくる、返すではなくて、何のたためにくみ上げとんかわかりませんので、それはこども課ってなったらそちらですし、教育委員会ってなったらそっち。福祉と教育の連携というのが平木さんの政治スタイルなんであれば、僕、てっきり時間外、割と言う政治家やと思っと思ったんであれなんですけど、昔からずっとそういう思いを持っていただいて市長の椅子に座っていただいとんやったら、やはりそれをかなえるべき職員はおるはずやと思っておりますので、そこら辺は若輩の僕が申し上げるのも失礼なんですけども、

やはりそれをかなえていただきたいと、よろしくお願いします。

最後に、こども園をという雰囲気になるんですけども、全体的に土地、学文路中学校のプールの北側っていうんですか、あこらはまだちゃんと整理できていない、この場できちり申し上げたらちょっとややこしなるんですけど、きちりできていない部分をきちり整備していこう。周辺整備、市道など、要望があれば公園などっていろいろ出てくるんですけど、校舎の利活用、そこらをもう一回、考えなあかん。

できるならば、個人的な僕の提案なんで、これはカフェミーティングの一人と思って聞いていただきたいんですけど、文部科学省プロジェクトを生かして、今経済推進部が一生懸命やってくれているDMOですか。観光云々、観光客云々って連携してやっていくのであれば、この土地はまだまだ先行投資していこうというふうに聞こえますし、少子高齢化の中でも豊かな地域で、子育てにやさしいまちというふうにもうたっていただいていますし、観光資源ばかりではないということなんです。やはりそこらも考えた上で、学文路中学校周辺というのは何かと中心になって交通アクセスもいいし、もしあれやったらビジネスの賃貸テナントであったり、スポーツ振興公社、森林組合もしかりですけども、サッカーのグラウンドもいけますし、何ていうても和歌山国体したソフトボール会場も歩いて数分のところにあるわけじゃないですか。やはり、民泊もしかりですし、合宿所ですね。観光を言うのであれば泊まる場所が足りないでしょうということもしかり、いろんなことが矛盾しとると思うんです。

こういうふうに行こうというのについていないのは、人の気持ちとそのハード部門も全然ついていけない。青空写真はで

きておるけども、色を塗れていないというのが今の現状に僕は感じるんです。だから、やはり使わずじまいの図面になってもいいから、何個かの案を1回考えてみませんかということをお願いしたい。それをしないと、選択肢がなかったら、そこにしか行けないような落としどころのまちづくりをしたら、20年後、30年後っておっしゃいますけども、10年、15年先、子どもは増えます。人口が増えるという意味ではなくて、この地域は絶対に子どもはこれ以上減らないと思います。今、現時点、外に行ってるんです、こども園がないために。だから、50人から60人ぐらいはほしい、旧学文路中学校校区の子どもたちが多分、預けるというか、園、外へ行ってると思うんで、ちゃんと計算式、福祉部長やったらできとると思うんで、やはり提言の材料にさせていただきたい。

あいた土地も空き家もしかり、言うとなんか矛盾せえへんのであれば、子育て世代はこの土地に来て、過疎率というか、高齢化のパーセントは下がると思います。そういう橋本の1番地一丁目ではありませんけど、ふるさと1番地一丁目として、絶対にこの土地はというふうな思いを持っていただきたい。答弁は最後に市長に、ちょうど8分ぐらいなんです。そういった僕の気持ちを踏まえた上で、このまち橋本って言えと言うとるのではないんですけど、全てがぼちぼちのまち橋本市頑張れというふうな感じでいいんでね。あれもこれもそれもって財政絡むんで、どれが一番というのもしんどいと思うんです。でも、全てがぼちぼち整とるまち橋本市という表現もいいんじゃないかなと、僕は思うんです。

そこら辺ちょっと最後に、市長の思いをお聞かせいただいて、できたら、15秒ぐらい僕に残していただけたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）堀内議員の質問にお答えをします。

学文路中学校の跡地については、現在、非常に正直言って悩んでいます。当初これはだめだったんですけども、学文路中学校の中にこども園と公民館ができひんかなというふうな、現存の建物を利用しながらというふうな考え方も持っていたんですけども、改修費のほうが大にかかるとというのが一点と、グラウンドが堤防に続いていますので、雨が降ればそこに水が集まってくるというふうなところで、1億円ほどを入れてもその条件は解消できないというふうなこともありました。

私どもとしても何とか学文路の振興というふうなことは常々考えております。これから、こども園、僕の心配はこども園をつくって本当に継続できるかなという不安のほうが大きくて、本当にそこに子どもがたくさん集っていただけるような場になるのであれば、当然のこと、それは考えていこうと思っています。ただ、ちょっと気になっているのが、やっぱり清水保育園の老朽化に対して、あそこのままで大丈夫なのか、学文路が6人、清水幼稚園が2人という現状の中でこれをどう考えていくんかというふうなことも踏まえた中で、これからこども園というのは、子どもがいるのであればしっかりとつくっていきいたいというふうに思っています。

公民館につきましても、実は、あと紀見と学文路だけなので、紀見については以前から建て替えてくれというお話をいただいています。その中ではちゃんと実行委員会であるとか、運営委員会の中で場所を決めてくださいと、市では決めませんというふうに皆さんが同意をしていただくような形が一番いいので、ひょっとしたら2箇所要るのかなというふう

気持ちもあります。そういうふうに、地域の人たちがやっぱり集うまちというような必要性も十分に認識をしておりますし、先ほど副市長が答弁したように、やはり教育と福祉の連携というのはこれから間違いなく重要になってきますし、今現在の状況を見ても教育だけでは解決できない問題がたくさんありますし、福祉だけでは解決できない問題もたくさんあります。問題の中でも、これ、福祉と教育だけじゃなくて、いろんなように交互になっているところも、問題点、どっかの課とどっかの課が一緒にやらんと解決できないというふうな部分もあります。そういう中でいかにして安全安心なまちづくりであったり、住民の人に満足してもらえようなまちづくりというのを、これから進めていく必要があると思っています。

急に8分しゃべれと言われてもなかなか難しい問題もありますけど、やはり財政難は財政難なんで、選択と集中で投資するところには投資をしていく。ちょっとここの部分については待ってくださいよというふうな部分を考えながら、一つの事業が終わればそっちの予算を今度、次年度に回すとかというふうなことも考えています。

西部中学校のお話も出ましたけども、今、考えているのは、実は西部中学校と西部小学校を移動できないかなというふうな思いを持っています。西部小学校も実はもう40年たっています、西部中学校は35年なんですよ。その中に体育館もありや、プレハブも実は小学校より広いプレハブがあるということで、これの交換ができないかなというふうなことも考えていますし、今現在、西部中学校廃校プロジェクトということで、うちから派遣している壺井が担当しているんですけども、それはもう民間の企業であったり、そこに貸していこうというところの今、募集をしてい

ますけども、なかなかマッチするようなやつは来ないというふうになっています。

これから逆に、40年たったところが4校ありますので、そこに対する予算付けをどうしていくかというふうなことも踏まえながら、とにかく学校というのは子どもたちのものがありますから、できるだけ早い時期に直していきたいという部分もありますし、教育についても、もっともっと地域で子どもを守っていく、地域で子どもを育てていくというふうなことも当然、考えていく。そのためには、やはりコミュニティスクールであったり、教育コミュニティであったり、それをいかにして早くつくり上げていくかということも第一でありますし、カフェミーティングについてもそうなんですけども、やはりもっともっと今やっていることに対して、私、1回目のカフェミーティング、ちょっと気に入らんだんで、もう一回考えろということで、もっと市が困っていることとか、これから大変なことがこれだけあるんよということを市民に伝えて、そこから意見をもらいなさいと。そして、これからどうしても進めていかなあかんことに対して、住民の人に理解をしてもらえようなカフェミーティングにしてくれというふうな話もしています。

やっぱり私の公約で市民協働というのは、結局、もう職員だけでは対応できないことが多々あって、その中で市民の皆さんにも協力してもらって、高齢者の地域包括ケアシステム、口で言うのは簡単なんやけども、やはりその中では地域づくりであったり、人づくりというのを進めていく必要がある。そういうことで、行政ができない部分を市民の人と一緒に、地域をつくり上げていくというふうな、これから考え方をしないと、なかなか難しいなというふうに思っています。これからいろいろ苦しみながら、いろんなことを考えていきな

がら効率的な財政運営もしていきたいと思えますし、決してお金がないからだめやというのではなくて、そういうふうな背景ができてくればやっていきたいなというふうに思っています。約20秒前になりましたので、これぐらいで終わらせてもらいます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ちょうどぴったりでありがとうございました。教育と福祉のミルフィーユ、きれいな断面図になるように祈っております。光が見えました。ありがとうございます。

一般質問を終わります。

○議長（中本正人君）12番 堀内君の一般質問は終わりました。

この際、2時15分まで休憩いたします。

（午後2時00分 休憩）